

活動オープンピアツァ in 狼煙・案山子づくりワークショップ

奥能登国際芸術祭におけるアートプロジェクト

団体名 池上フィールド

代表者名 池上奨

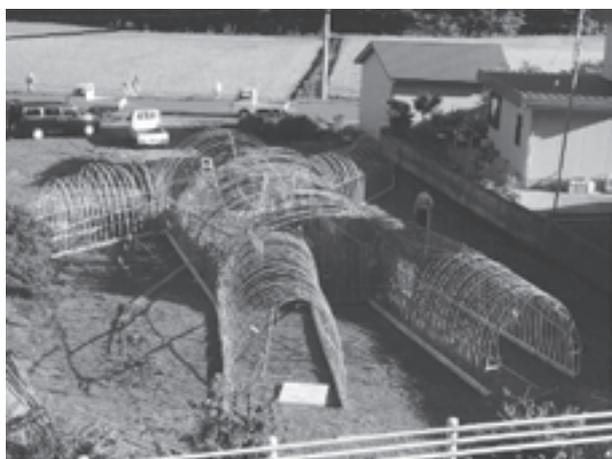
はじめに

この活動は、狼煙町横山地区の住民で構成される横山振興会、金沢星稜大学人間科学部こども学科池上フィールドが共同して、農村文化の案山子づくりを通して今後の持続可能な地区づくりに寄与することを目的として実施した。

奥能登国際芸術祭

奥能登の珠洲市で初めて開かれたアートの祭典「奥能登国際芸術祭2017」は22日、閉幕した。市内の各地で、民家や廃線となった旧駅、学校跡などを舞台に11カ国・地域の39組の現代アート作家らの作品が展示され、50日間にわたって開催。芸術祭実行委によると、推計入場者数は7万1千人に達し、目標だった3万人の2倍以上を集めた。

私達は地元、狼煙町横山振興会の皆さんと「案山子の昼寝」と題された迷路を製作した。



活動内容

同地区は、わが国の高度経済成長期を支える労働力として、出稼ぎや常用労働者として多くの住民が都市部へ流出し、現在では少子化と高齢化による深刻な人口減少に直面している。昭和40年代の能登ブームが去ると、人口減少に拍車がかかり、高学歴社会の到来と共に若者は都市部の大学・専門学校に進学し、そのまま都市で就職し結婚生活を送る事になった。こうした時代の推移に横山地区も抗う事が

出来ず、先人から受け継いできた農林漁業の生業も大きく姿を変えてしまった。しかし、この地区には先人から受け継いだ農村文化を今に復活させようと意欲的に取り組んでいる住民が居る。こうした住民を核にした同地区の再生プランの構築が必要となった。そこで、金沢星稜大学・池上フィールドでは歴史・文化・伝統・技能・21世紀・アートをキーワードとして、「アートは地域に何ができるのか?」という課題を更に深化させ。活動7年目の今年は「オープンピアツァ in 狼煙 エコでできるアイドル『KKC48』プロデュース・2」をテーマに2日間の日程で活動を行った。

2108年7月14日～7月15日の2日間にかけて池上ゼミ2～3年生9人と横山地区の地域住民の方々、合わせて30人で案山子作りを行った。

昨年行われた奥能登国際芸術祭の時と同様に従来の案山子製作以外にアート作品を製作した。地域住民、学生が一体となり製作した「レインボーゲート」である。これにより珠洲市に於ける横山地区のアート先進地性のアピールに貢献する事が出来た。

製作内容

案山子の骨組み部分に大学内で使わなくなった服の募集を行い、集まった服を案山子に着せ、顔を描くなどリフォームを行い、道路沿い延べ100メートルに役60体を立てた。



レインボーアーチ

竹20本を活用した大きな虹のアーチをモチーフとしたアート作品も完成させた。

- 1本の竹を4頭分に割った。
- 4頭分に割いた竹の節を切り取り、7色の色をそれぞれ塗った。
- 木で作った基盤に竹を取り付けていき、アーチ上に取り付けた。



成果、結果の考察

学生に対して：

- 横山地区で受け継がれてきた案山子の由来。
～物語性がある～
- 農村の原風景を再生し、体感する。
～体験価値を創造する～
- 地区住民、学生、園児、保護者が一組となって作業を行う。
～交流～
- 参加者の達成感と再訪問
～自己実現の契機～
- 奥能登国際芸術祭が行われた事により学生は世界のアーティストの感性を肌で感じる事が出来た。
～体感～

地域に対して：

地区住民と園児・児童・保護者との語り場（交流）

- 老壮青児の価値観が交差した。
- 古老が学生達に知恵の大切さを語りかける事により、学生達は新しい気づきに感動した。
- 学生達は自分に欠けている生活の哲学を知ることが出来た。
- 住民は学生達の強みや弱みを知る事が出来た。
- 何気ない会話から双方が新しい発見を得る事が出来た。
- 奥能登国際芸術祭に於いて案山子造りを行う事によって横山地区の存在をアピールする事が出来た。

今後の課題、展望

この横山地区は平均年齢も70歳を超えており、県内屈指の超高齢化社会である。しかし横山地区の皆さんはすこぶる、お元気でスキルも高い。学ぶ事だらけである。しかしながら、如何ともし難い事であるが横山地区の皆さんが何時か消えていく事は時間の問題である。それでも私達は微力ながらも横山地区の皆さんに寄り添い、このプロジェクトを続けていきたい所存である。